

副知事及び生活文化スポーツ局長の海外出張について

1 出張先

アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス市／オレゴン州ユージーン市

2 出張期間

潮田副知事 令和4年7月13日(水)から17日(日)まで

横山生活文化スポーツ局長 令和4年7月11日(月)から17日(日)まで

3 出張人数

潮田副知事及び政策企画局職員1名

横山生活文化スポーツ局長及び同局職員4名 計7名

4 総経費

13,621,439 円

5 出張の目的

カリフォルニア州ロサンゼルス市においては、東京 2020 大会後1年の節目の機会を捉えて、ロサンゼルス市と東京 2020 大会のレガシーや開催により得られた知見などを共有し、オリンピック・パラリンピックを通じた都市の発展やスポーツ振興などについて意見交換を行う。

また、オレゴン州ユージーン市においては、第 18 回世界陸上競技選手権大会に合わせて、世界陸上に関する現地調査を行うとともに、ワールドアスレティックス(WA)や世界から訪れるスポーツ関係者とスポーツの発展に向けて、関係構築や意見交換を行う。

6 副知事及び局長の出張先での主な行動と成果

<カリフォルニア州ロサンゼルス市>

潮田副知事はロサンゼルス市役所を訪問し、ニナ・ハチギアン副市長と面会を行い、昨年締結した交流・協力に関わる合意書に基づく都市間交流のさらなる促進をはじめ、オリンピック・パラリンピックを通じた都市の発展やスポーツ振興などについて意見交換を行いました。



ロサンゼルス市副市長との会談の様子

<オレゴン州ユージーン市>

WA や世界陸上 2021 組織委員会、また、世界から訪れるスポーツ関係者に対し、東京 2020 大会の一年延期への協力に対し謝意を直接伝えるとともに、スポーツの発展に向けた関係構築や意見交換を行いました。

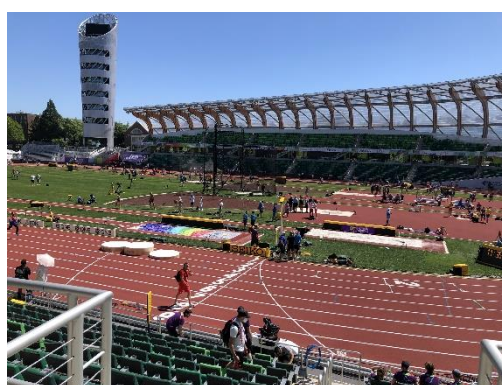
また、7月15日に開幕した第18回世界陸上競技選手権大会のメイン会場であるヘイワード・フィールドや、ロード競技の会場となっているオーツェン・スタジアムの沿道において、競技や大会運営の視察を行うとともに、関係者へのヒアリングを実施しました。

さらに、ユージーン市主催のライブサイト事業「Riverfront Festival」やムラール(壁画)プロジェクト等、市における気運醸成の取組を視察しました。横山局長は、大会のホストシティであるユージーン市のルーシー・ヴィニス市長を訪問して、スポーツイベントの開催を通じていかに都市の魅力を発信し、レガシーを残していくかについて、意見を交換しました。

今回の視察で得られた大会運営や気運醸成の取組の知見を、2025年世界陸上をはじめとした国際大会の運営、おもてなし等に活用していきます。



空港で活動するボランティアの方々



ヘイワード・フィールドの準備作業の様子



ロードレース競技（競歩 20km 男子）



ライブサイト会場のメインステージ



市内を彩るムラール（壁画）



ユージーン市長との面会